令和２年度
行政評価諮問事務事業に係る答申書

令和３年３月

愛南町行政評価委員会

目　　次

１　審議経過　・・・・・・・・・・・・・・・・　3 ～ 4

（１）　評価した事務事業　・・・　3

（２）　評価の手順　・・・・・・・　3

（３）　会議の内容　・・・・・・・　4

２　当委員会の評価　・・・・・・・・・・・・・　5 ～ 8

（１）　評価の観点　・・・・・・・　5

（２）　評価の種別　・・・・・・・　5

（３）　評価の方法　・・・・・・・　5

（４）　評価の決定　・・・・・・・　6 ～ 8

３　委員会委員名簿　・・・・・・・・・・・・・　9

１　審議経過

（１）　評価した事務事業

次の２つの地域再生計画について評価しました。

1	**地域再生計画**	**豊かな自然環境と共生し快適に暮らせるまちづくり計画**
	交付金	地方創生道整備推進交付金
	担当課	建設課・農林課

2	**地域再生計画**	**売り出せ愛南農水産物最高を目指す地域商社事業**
	交付金	地方創生推進交付金
	担当課	農林課・水産課・商工観光課
		農業支援センター運営事業 水産物販売促進事業 新養殖魚種導入支援事業 新品種養殖試験事業 水産ＩＣＴ利活用事業 愛南町観光振興推進事業

（２）　評価の手順

①　事務事業担当課による内部評価を経た事業マネジメントシート（事後評価）及び附属資料により事業説明を受け、質疑応答を行いました。

②　行政評価シート（本書巻末に【資料】として添付）により各委員の評価を取りまとめ意見集約を行い、討議の上、当委員会の評価を決定しました。

（3） 会議の内容

次の３回の会議を開催しました。

回数	日時・場所	主な審議内容
第１回	令和３年１月13日(水) 9：00～ 本庁　３階　大会議室	・諮問 ・事務事業の説明及び質疑応答 ・質問事項及び追加要求資料の取りまとめ
第２回	令和３年２月２日(火) 13：15～ 本庁　２階　第１会議室	・第１回委員会における質問事項について ・事務事業の評価の準備
第３回	令和３年２月22日(月) 13：15～ 本庁　３階　大会議室	・事務事業の評価の取りまとめ及び意見集約 ・事務事業の評価の決定 ・答申書(案)の確認
答　申	令和３年３月２日(火) 町長室	・答申

２　当委員会の評価

（１）　評価の観点

次の観点により評価しました。

観点	意味
妥当性	・上位の施策・基本事業成果指標の向上に貢献しているか(上位成果への貢献) ・税金を投入して行うべきか(公的関与の妥当性)
有効性	・意図に対して手段が有効か(成果状況) ・成果が向上する余地があるか(成果向上余地)
効率性	・現在の手段をもっと安価に実施できないか(効率化余地1) ・他の手段で事業を実施できないか(効率化余地2)

（２）　評価の種別

次の種別により評価しました。

種別		意味
維持	このまま継続	妥当性、有効性及び効率性に問題がないため、今年度の進捗状況をにらみながら昨年度と同様に実施する。
見直し	拡大	予算や人員などのコストの投入を拡大し、より大きな成果を上げることをめざす。
	縮小	予算や人員などのコストの投入を制限し、事業規模を縮小する。
	実施方法の改善	手段を見直すことにより、成果の向上やコストの削減をめざす。
	事業統合	他の事業と統合し、効率的な事業実施をめざす。
休止		事業目的を達成した、または成果向上の余地がないなどの理由により、一時的に事業を休止する。
廃止		事業目的を達成した、または成果向上の余地がないなどの理由により、事業を廃止する。

（３）　評価の方法

評価に当たっては、各委員による「（１）評価の観点」の「妥当性」、「有効性」及び「効率性」の評価を集計し（９名の委員がそれぞれの項目に対して１票ずつ投票）、「意見・提言」とともに討議の参考としました。最終的に当委員会の評価は、「（２）評価の種別」から選択し、また、それへの解説を加えて決定としました。

（4） 評価の決定

次のとおり当委員会の評価を決定しました。

① 評価の一覧

事業			評価の種別
1	**地域再生計画**	**豊かな自然環境と共生し快適に暮らせるまちづくり計画**	**維持／このまま継続**
	交付金	地方創生道整備推進交付金	
	担当課	建設課・農林課	
2	**地域再生計画**	**売り出せ愛南農水産物最高を目指す地域商社事業**	**維持／このまま継続**
	交付金	地方創生推進交付金	
	担当課	農林課・水産課・商工観光課	

② 評価の詳細

（ 7 ～ 8 のとおり）

1	地域再生計画	豊かな自然環境と共生し快適に暮らせるまちづくり計画
	交付金	地方創生道整備推進交付金
	担当課	建設課・農林課

1　評価の観点

項目	高い	どちらかと言えば高い	どちらかと言えば低い	低い
妥当性	3票	6票		
有効性	2票	6票	1票	
効率性	2票	5票	1票	1票
計	7票	17票	2票	1票

2　意見・提言

・道整備は通学バスの安全な運行にもつながっているため、今後も引き続き推進していただきたい。
・舗装等未整備地域の整備は、今後も道路状況等を考慮して計画的に実施していく必要がある。
・自然環境や景観にも配慮しながら、継続して事業実施していただきたい。
・原材料支給による道整備も一部行われているが必要性の高い道路については、町工事として対応願いたい。
・完成後の道路状況について、改良後等の通行量など確認が行われていないため、Ｐ（計画）Ｄ（実行）Ｃ（評価）Ａ（改善）の徹底していただきたい。特に通行量の変化等を検証していただきたい。
・道路整備は生活の利便性向上に寄与することに疑いを持たないが、延伸をやめ維持補修中心に切り替えるときが近づいているのではと思う。
・災害時や緊急時の車両が支障なく通行できるよう、町道・農道・林道を総合的に整備していただきたい。（所属課と防災、消防が主体となって、通行経路の一体化に努めていただきたい。）
・道整備については継続して実施していただきたいが、整備箇所の選考方法について見える化していただきたい。

3　当委員会の評価

評価の種別	解説
維持／このまま継続	住民の生活や命を守る重要な事業であり、通学バス・愛南バス等の安全運行に繋がっているため、引き続き推進してほしい。また、防災の観点においても、災害時に車両が支障なく通行できるよう町道・農道・林道の総合的な整備を行っていただきたい。 ただし、工事施工箇所等の選考方法について明確化していただきたい。

2	地域再生計画	売り出せ愛南農水産物最高を目指す地域商社事業
	交付金	地方創生推進交付金
	担当課	農林課・水産課・商工観光課

1　評価の観点

項目	高い	どちらかと言えば高い	どちらかと言えば低い	低い
妥当性	8票	1票		
有効性	5票	4票		
効率性	1票	4票	4票	
計	14票	9票	4票	0票

2　意見・提言

・松山・大阪や首都圏などの販売促進活動については引き続き継続し、首都圏以外の地方都市にも力を入れてほしい。
・共同連携体制の取組みについては、社会情勢に対応しながら継続すべきである。
・地域商社事業においてはコロナ禍によりすぐに事業展開とは行きにくいが、今後の展望として海外輸出戦略に期待する。
・愛南町は自然豊かで全国に誇れる農水産物も多いため、交付金事業を活用した事業展開等も継続して行っていただきたい。
・支援や補助に対する事業は自立への到着点を明確化し、どこまでになったら補助事業を終えるのか指標で見える化してほしい。また、底なしの予算とならないように徹底した事業精査に努めていただきたい。
・委託業務に関しては、近隣の市町村の同種事例を参考に幅広い業者の参入及び業務成果達成目標値を見える化してほしい。
・観光ＰＲ動画は愛南町の魅力満載で曲も映像も素晴らしいため、もっと活用してほしい。また、地域の児童、学生とコラボレーションして町民を活気づけてほしい。

3　当委員会の評価

評価の種別	解説
維持／このまま継続	第一次産業の活性化においては、首都圏での販売促進や新魚種の開発など極めて有効的な取組である。また、愛南ゴールドについては、知名度向上に課題があるため更なるＰＲ活動に努めてほしい。なお、継続した取り組みについては、どこまで支援・補助すれば自立した事業となるのかを見える化し、費用対効果を意識した事業展開を期待する。

３　委員会委員名簿

番号	職務	氏名	備考
1	委員長	砂田　陽子	
2	副委員長	大西　浩樹	
3	委員	兵頭　堅次	
4	委員	宗田　清昭	
5	委員	益田　貴之	
6	委員	渡邊　千寿	
7	委員	高橋　一見	
8	委員	山川　美和	
9	委員	松本　正子	

【資料】

行政評価シート

	地域再生計画	
	交付金	
	担当課	

1 妥当性

①上位の施策・基本事業成果指標の向上に貢献しているか（上位成果への貢献）
②税金を投入して行うべきか（公的関与の妥当性）

□高い　□どちらかと言えば高い　□どちらかと言えば低い　□低い
コメント

2 有効性

①意図に対して手段が有効か（成果状況）
②成果が向上する余地があるか（成果向上余地）

□高い　□どちらかと言えば高い　□どちらかと言えば低い　□低い
コメント

3 効率性

①現在の手段をもっと安価に実施できないか（効率化余地1）
②他の手段で事業を実施できないか（効率化余地2）

□高い　□どちらかと言えば高い　□どちらかと言えば低い　□低い
コメント

4 意見・提言

5 評価

●維持	□このまま継続
●見直し	□拡大　□縮小　□実施方法の改善　□事業統合
●休止	□休止
●廃止	□廃止

＊評価の種別については次項を参照

<table>
<tr><th colspan="2">評価の種別</th><th>評価の意味</th></tr>
<tr><td>●維持</td><td>このまま継続</td><td>妥当性、有効性及び効率性に問題がないため、今年度の進捗状況をにらみながら昨年度と同様に実施する。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">●見直し</td><td>拡大</td><td>予算や人員などのコストの投入を拡大し、より大きな成果を上げることをめざす。</td></tr>
<tr><td>縮小</td><td>予算や人員などのコストの投入を制限し、事業規模を縮小する。</td></tr>
<tr><td>実施方法の改善</td><td>手段を見直すことにより、成果の向上やコストの削減をめざす。</td></tr>
<tr><td>事業統合</td><td>他の事業と統合し、効率的な事業実施をめざす。</td></tr>
<tr><td>●休止</td><td>休止</td><td>事業目的を達成した、または成果向上の余地がないなどの理由により、一時的に事業を休止する。</td></tr>
<tr><td>●廃止</td><td>廃止</td><td>事業目的を達成した、または成果向上の余地がないなどの理由により、事業を廃止する。</td></tr>
</table>